

I &amp; K

## 家庭新聞

「風の音」を聴いた

パブクロールはしこ酒で

馬に乗ってどこまでも続く原野を駆け抜ける爽快感  
は筆舌に尽くしがたい。  
最初のパブクロールの時  
だった。馬に乗ったとたん  
に人間が変わるといわれる  
私を、馴らし乗馬というこ  
とを忘れて、思い切り走ら  
せてしまった。

条件も揃っていた。土は  
硬く、草原は開け、馬は喜  
び、私はなにも考えず、ひ  
たすら馬を駆けさせた。す  
ごいスピードが出たと思  
う。なぜなら、そのとき私  
は確かに風の音を聴いたの  
だから。

もういちど、あの風の音  
を聴いてみたいという思い  
に駆られてパブクロールに

熱を上げる私。  
パブクロールとは、直訳  
すれば「はしこ酒」。正式  
には

PUB CRAWLS

ON HORSE BACK

馬に乗って村から村  
へ旅をするのだが、意外と  
たいへんな代物だ。1日平  
均40キロ、2つほど山越え

道中では狐やカンガルー  
の親子、ひとり遊びの赤ち  
やんカンガルー、牛や羊の

よういせいか、私たちの  
旅行中は1日も降らなかつ  
たけれど、写真(上)の川  
渡りのときはさすがに大  
変。水深は1メートルを超  
えていて、ほとんどのひと  
が腰までびしょ濡れになっ  
た。昨年は3回出かけた。  
今年は、3月上旬に4回目  
のトライ。

私の会社のスタッフで馬  
仲間でもあるY女士は2回  
同行したのだが、初回は  
乗ったため3日目にギンタ  
リ腰でリタイア。それでも  
彼女、また行きたくてウズ  
ウズしている。

## アウトドア特集



## 無人の原野(豪州)を馬で駆ける 竹村亜希子さん

もちろん私もまずビール! 皆で口々に『to the bar! to the bar! to the bar! bar! bar! bar!』と叫びながら酒場へ繰り込む。このあたりがパブクロールのだいたい味である。

今年、オーストラリアは大雨が続いた。昨年の早魃(かんばつ)が嘘みたい。当然のことだが川の水かさも増した。日頃の心がけが

発行所 名古屋市昭和区栄町3-21  
I & Kプロジェクト  
代表 田 勇夫・若 善代子  
制作協力 朝日新聞名古屋本社  
ASA-COMのこや  
電話 (052) 221-0362

おんなの時代

澤田ゆう子さま  
子供が小さい頃、我家では外遊びを、たくさんしました。とくに近くの天白川には、よく遊びに行きました。  
春は、土手におりて筆(つくし)を摘みまわした。また、しろうつめ草を摘み、首輪を作りまわした。  
夏には、海水パンツになり、魚とたわむれました。水遊びをしているま横を蛇が川を渡りていきました。  
秋は、広い河川敷でトンボを追いかけながら、キヤンチボールをしました。

でも、いちばん楽しんだのはサイクリングです。  
夏には、海水パンツになり、魚とたわむれました。水遊びをしているま横を蛇が川を渡りていきました。  
秋は、広い河川敷でトンボを追いかけながら、キヤンチボールをしました。

(占いの玉手箱主宰)